

This is a newsletter from Shinshu University Global Education Center (GEC).
In case this email newsletter is unreadable, please try the online version
http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/about/publications/docs/newsletter_vol62.pdf

◆◆◆————— Vol. 62. 2017. 6.

◆◆◆
信州大学グローバル教育推進センター ニュースレター
Shinshu University Global Education Center (GEC) Newsletter

◇
◇◆
発行：信州大学グローバル教育推進センター(GEC)
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/>

[今号の目次]

- * ごあいさつ
- * 最近の出来事
- * 信大NOW NO. 103/ NO. 104
- * スタッフ近況報告
グローバル教育推進センター 非常勤講師 大塚綾子先生
- * 生活ちょっとコラム

■□

□ ごあいさつ

みなさんこんにちは！

すっかり梅雨の季節になりました。皆さんはどうお過ごしですか？
梅雨が明ければ夏本番です。水分をたくさん取って夏バテにならないようにしましょう。

それでは、今日も元気にニュースをお伝えしていきます！

■□

□ 最近の出来事

★6月18日に松本市Mウイングにて「こいこい松本」が開催されました。

実行委員会主催の「第8回こいこい松本～松本国際ふるさと祭り～」が、
2017年6月18日（日）に松本市のMウイングで開催されました。
今年は8つの国や地域がそれぞれの部屋に分かれ、松本地域で暮らす外国人や
留学生たちが自国の食文化や伝統を発表、多くのお客さんで賑わいました。
またステージパフォーマンスでは民族衣装のファッションショーやダンスが披露されました。

詳しくはこちら↓↓↓
<https://ja-jp.facebook.com/KoikoiMatsumoto/>

また、信州大学国際交流同窓会は新たにホームページとFacebookページを作成
しました。ぜひ、アクセスして世界の各支部の様子、これまでの写真などを見て
みてください。

同窓会ホームページ <https://shinshualumni.wordpress.com/>
同窓会Facebookページ <https://www.facebook.com/shinshualumni.jp/>

■□

□ 信大NOW No. 103/No. 104 のご案内

信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介、研究者の研究内容など、信州大学が良くわかる広報誌「信大NOW」最新号の目次を紹介します。

<No. 103>

○信州大学次代クラスター研究センター特集②
菌類・微生物大浪ニズム創発研究センター
信大の伝統的な菌類・微生物研究を“創発”する新組織

○着ているだけ血圧や血糖値を高精度測定する衣服
ウェアラブルバイタルサイン
測定システム開発プロジェクト

○林業の未来を変える
レーザーセンシング情報を使用した
スマート精密林業開発
長野モデルとは？

○経済×生物多様性
消費の裏側でおこる絶滅危惧種への影響をマップで視覚化！

○TOPICS
学生会館で「信州大学国際交流会」が開催されました
信州大学自然科学館が、ミニシンポジウムとマイスターシンポジウムを開催
上海交通大学Bio-X研究員と学塾交流協定を締結
航空宇宙システム研究センター「テイクオフ！シンポジウム2016」開催

○あの取材の、その後の話題…
信大NOWスピンオフストーリー①
信州大学×長野県農協直販

etc.

<No. 104>

○[特集] 信州大学伝統対談VOL. 5
濱田学長×野村達雄さん（ナイアンティック ポケモンGOディレクター）
信大の自由な校風、多様性に満ちたキャンパス。
世界へ、そして「ポケモンGO」へ。

○世界のものづくりコミュニティと教育学部の出会い教育学部とのコラボは日本初！
FabLab Nagano 発想が変わる！デジタル工作機械を使った新しいものづくり体験

○「健康生活の達人教室」パネルディスカッション
大麦の魅力と付き合い方

○大きなターゲットを目指し、分野融合の取り組みを
2017. 2. 16 アクア・イノベーション拠点・第4回シンポジウム

○数字で見る信州大学
平成27年度大学等における産学官連騰実施状況について

○TOPICS
UAE大使が信州大COI拠点を訪問 協力の可能性探る
信州大学は長野県内3市とそれぞれ包括関連協定を締結
信州大学とNTTタウンページ株式会社の共同研究で
「タウンページ松本市版」が完成
シンガポール工科デザイン大学（SUTD）の研究者3人が信州を訪問

○地域科学技術実証拠点整備事業
ファイバー・ベンチャーエコシステム形成拠点（仮称）

etc.

全文は信州大学の公式Webサイト上でデジタルパンフレットとして公開されていますので、ぜひご覧ください。

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/#publication>

■ □
□ スタッフ近況報告 GEC 非常勤講師 大塚綾子 先生

日本語授業を担当している大塚です。
出身は千葉県ですが成田空港の近く、つまり田舎で育ちました。家の周りはみんな田んぼでしたが、父はサラリーマンで私は米の作り方なんて知らず、5月に田植え秋に稲刈りと脱穀と精米、現代はみんな機械でやるんでしょう？と最近まで思っていました。ところが、去年から私は米作りを手伝っています。40歳を過ぎて、初めて勉強しましたよ。田植え機もたまにはミスをするので、忘れられたところがあれば苗を持って泥の田んぼに入り、手で植えに行きます。それから毎日、根がついたか、順調に伸びているか、株が増えているか観察します。隣の田んぼはライバルですからいつも葉の色や成長を比べています。夕方、田んぼの取水口を開けて水を入れ、朝になると閉めます。下の泥が黒いので昼間は日光で水がよく温まり、稲はお風呂に入っているようです。それでどんどん伸びるのです。夜は冷たい水が入るので温度が下がります。いい味の米を作るにはその温度差が大切なのだそうです。果物づくりと似ていますね。さて、うちは無農薬栽培なので稲の株の間に雑草が生えます。夏は草取りが大事な仕事です。やはり長靴で泥の田んぼに入りますが、ときどきカエルをつかまえて遊んでいます。稲が適当な高さに成長したら2、3日水を止めて、稲を少し飢餓状態にします。そうすると稲がだまされて、花が咲いて穂を出すのだそうです。穂が出てから約40日で収穫です。この、稲をだますのと稲刈りの日を決めるのは、農家の腕の見せ所です。同じ地域で同じ品種を育てても作り手によって米の味に違いがあるのも、初めて知りました。みなさんの国でもコメが作られているのでしょうか。先祖から何百年、何千年、受け継がれてきた稲作の技術をご存知でしたか。わたしは自分の食べる物を自分で作り、今はたいへん充実感があります。今年も楽しみです。

■ □
□ 生活ちょっとコラム ～お盆～

日本では毎年多くの地域で8月13日から8月16日の間に「お盆」という行事があります。お盆とは私たちの先祖の霊を祭る行事のことで、この期間には先祖の霊が子孫や家族のもとに帰ってくると言われており、私たちは迎え火やお供え物をして故人の帰りを歓迎します。迎え火とは先祖の霊が迷わずに戻ってこられるようにする目印のことで、お盆が終わる頃には送り火を焚き、先祖があつた世へ帰って行くのを見送ります。その際、松本では故人の霊魂がこの世とあの世を行き来するための乗り物として、「精霊馬」（しょうりょううま）と呼ばれる、キュウリやナスで作る動物を用意します。爪楊枝や折った割り箸などを足に見立てて野菜に刺し、馬や牛として仏壇周りにお供え物と共に配します。

また松本では8月上旬に「松本ぼんぼん」という盆踊りの行事が開かれます。毎年それぞれの学校や会社が参加していますが、一致団結して踊るのはとても楽しそうですね。盆踊りは、元々はお盆に帰ってきた先祖の霊をなだめるための行事でしたが、今は宗教的な意味合いは薄れ、娯楽として楽しまれています。

昔から受け継がれている伝統の行事はこれからも大切にしていきたいですね。

